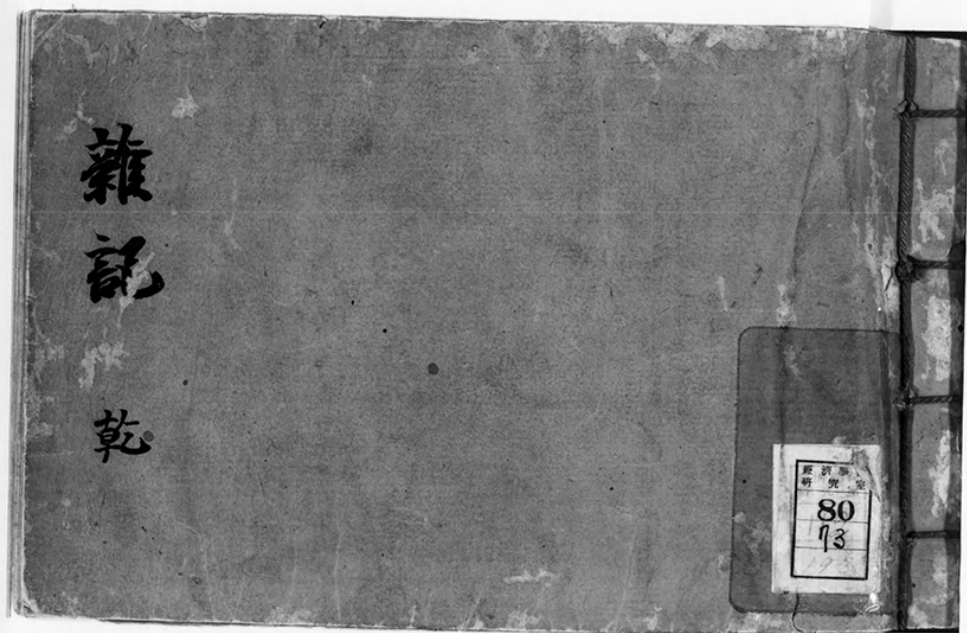
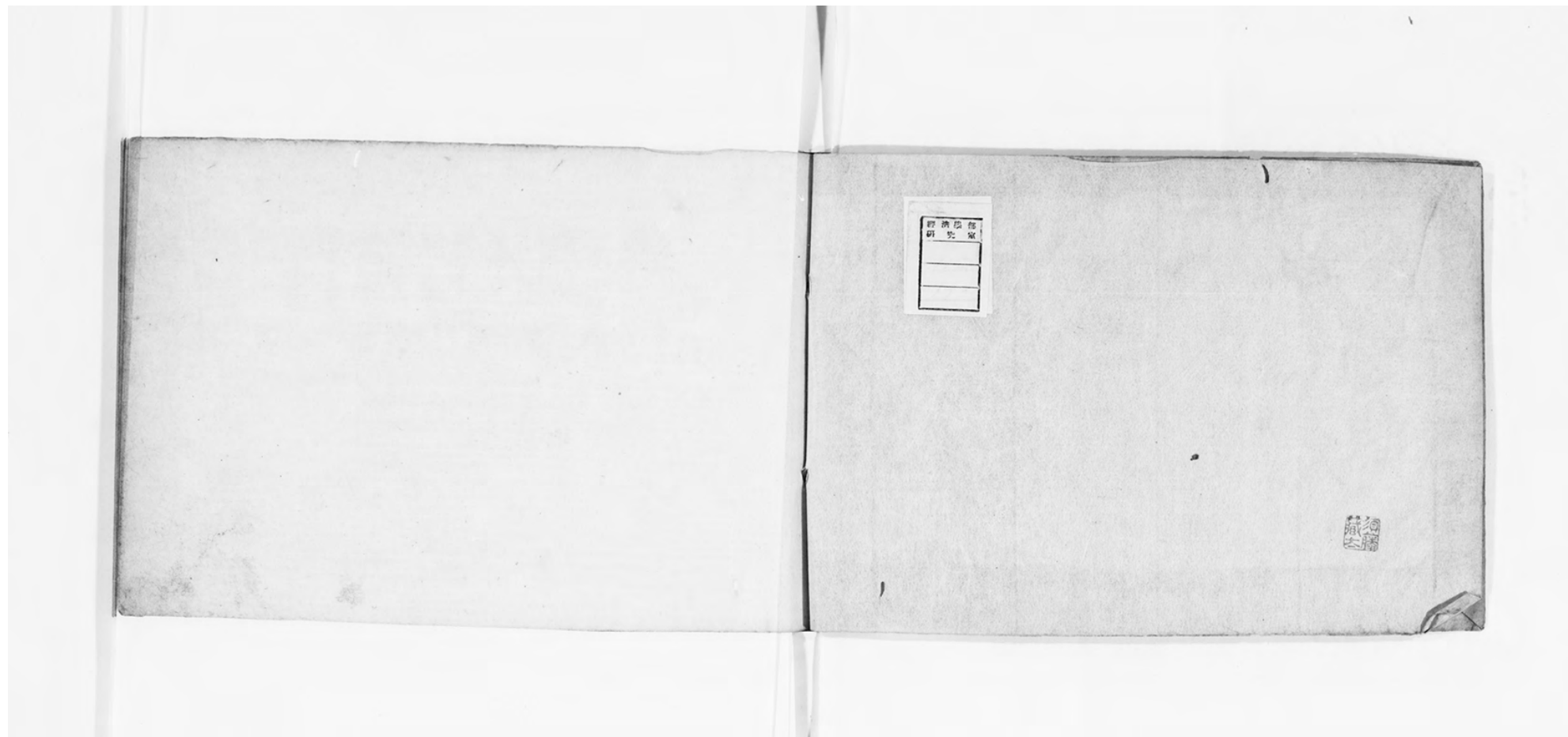


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。





研究
研究
研究
研究
研究

東京大学
経済学
図書
蔵

湯設順



家
年
年
側用人
側用人
舊
旗奉行
陰奉行
物
學園奉行
儀
防
側用人
留守
佐士
取

家人
家人



金
全
指
年
指
元

與年考
 那末以
 所求以
 宗名系
 紅毛以
 上勤定以
 大月付
 常後以
 例目付
 目付
 和子以
 書化方
 大納戶
 小納戶
 馬也組頭
 下勤定以
 大代官
 年俸報
 信々
 時少神
 唐律以刑
 寺社之類
 足云云次
 足云云次

使番 醫巴 道醫 中匠 中小 奕中 勅暗 新夜 中小 右象 吟味 石象 中頭 地方 套象

書督改
小藏奉行
冷東山
代官
山奉行
奉道真玄紀
馬驛
馬驛
魯通
沈士小頭
基所同月
數芳歷方
膳役
勸業亦見圖
地方收買會
中山姓楊汝人
小兒

隱 莊
陸 山
陸 山
伏 龍
使 龍
番 龍
番 龍
石 方
雜 用
小 勘
帳 付
款 付
印 信
印 信
掃 除
料 理
雜 業

町方英富家方并
打之てれ切

修蓋小波人
 春風波
 望並防主
 且收防主
 帳分月留
 下目分
 榮波波
 厥極華奉行
 小頭並小波人
 依威人
 細外且收
 修蓋波波
 修蓋波波
 且收波波
 且收波波
 西尾防主用主玩普絕
 番絕之雁
 以勝主用主玩普絕

以勝主用主玩普絕
 以勝主用主玩普絕

一老

武百八拾石云

但持る武百石者より月以常ハ
大拾儀動料来云云云云
汲揚中月以常云云在動料
来云云云云

三人者坊子
一在列

武拾人杖持云

但加利月常中月以常ハ新如
武百石云

一側用人

一側用人拾

百十拾石云

但加利月常中月以常ハ新如

一旗奉行
一繪奉行

物頭

百拾石高

但納屋位百貳拾石高

一江戸物頭

勝又用人

百三拾石高

但納屋位百石高

一側勤

一取次

大月付

八拾石高

但納屋位六拾石高 取次八拾人
持持了

一留守

百貳拾石高

但納屋位百石高

一奥年寄

勘定奉行

側目付

目付

書札方

但勝又用人が月番に就
者ハ八拾石高 但納屋位六拾石高

但給米取者拾人 持持格 五拾石高

書札方 書取之 但納屋位八拾人 持持

大納戸

但書札方月付

小納戸

五拾俵高

但納屋位拾人 持持格 五拾石高 但取格了

一町奉行

町奉行

百石高

但納屋位八拾石高

一番付奉行

五拾石高 但納屋位八拾石高

右所引叙傳より同例

一中姓月付

右系

右三人被持内より述より近より
三人被持より

但叙傳表中小姓同例

一 根之叔重之年、廣繼、者并

預、一、より公見、國、者並

廣、名目除より常、旗、より

勝、より用人、述、婦、より根、より叔、より

其、より下、より婦、より根、より叔、より

但根之増并給度より述より年數より前系

より

一 仰、より子信、より被持、より通國、並、

被動、よりより、者、より婦、より拾、より被持

例用人、婦、より人、被持、より、
旗、より、より、者、より婦、より、
通國、並、被動、より根、より並、より
前系、廣、より名目、除、より者、より
同例

檢便くす

一 横死する所有り者其の
来り得る事速に檢便す

但し其の事一者漸く附く者不
能自付く下月付人等其の事以て下
者付く迄自付く下月付人
檢便す

一 檢便中月以而く大月付月番
宅に在りて檢便す

檢便中月付下月付檢便す

右 通に如き事五五本に觸れ
る事

一 中小姓以下支取附者其の時
に

麻口之次方

大小一證以次升

高时德

看用花一次

常々次方

懷中物一
次牙

下帝

但外子欲之甚切是兄更累八

尺斗了也德事

一、在場市上集合、逐條、逐條、

外科何々誰か肺位如何

中

有通檢使仕外子細意以爲

望

けり

何維

丁巳年

何之惟

一曰畫取以成之方者不主二孫郭內

不請取子來

一、中、日、韓、越、有、一、切、之、家、園、を、

如人所判之事

但想存心書面一色以好為心也

通格と云ふは、通因生果の時、

如く成るべくも及ぶ要事

一石仕男女二層抱之也書取

了事

從下男中判者所判也

日書先方志總之志公事

書に云く色は一多の事

松子如凡其通也

木子西風通

中 國 及 其 以 來 之 文 學 史

車司父惟丁人部族

連和文雅。一以家族之

其陽也

以書取之

但此常之系以者八以書取之不必

町部未も利と差を以て町部内
遊常者有之何と云ふ者漢書
に書取るより中口同くして一
主事であるかと思ふ味遠ひ
思ふこと思ふ事

口書總方大凡
本紙屋紙

口書賞

一何々維何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

何々何々何々何々何々何々

一檢便と云ふ者漢書に檢便と云ふ
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

一檢便と云ふ者漢書に檢便と云ふ
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

一檢便と云ふ者漢書に檢便と云ふ
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

一檢便と云ふ者漢書に檢便と云ふ
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々
何々何々何々何々何々何々

右通不月何日自安永六月七日
了何一多及云永以来一

覺

一慶長十一年九月廿日江戸
市城寺普請出来 市移住有

一寛永十四年七月十日

公方梅永光公 市上寺因十日

市上寺 因同七月十日

市院系三原教所人上福公十身月給
但家毎限百之格八分八分三占
又天授系自地子根

又件三一家教三万六千四百拾五兩

一因月廿日江戸西丸 市城公火

基教稅多一樽酒樽味福永市變

一市上寺市因中 西丸

市殿稅酒并雜樂取思世相守了
市 作自以廣公不十條紀系變

今致^レも老防委細^レ以^レ上
免^レ許^レ就^レ執^レ指^レ 石^レ教^レ家^レ
は 作^レ付^レ以^レ

一同八月朔日^レ市^レ順^レ日^レ

公方極^レ市^レ未^レ肉 市^レ院^レ未^レ同^レ日^レ
未^レ致^レ 市^レ後^レ駕^レ同^レ年^レ九月^レ日^レ
還^レ市^レ

一寛^レ永^レ和^レ十六^レ卯^レ年^レ八月^レ日^レ

市^レ本^レ九^レ日^レ市^レ未^レ市^レ大^レ慶^レ長^レ十^レ年^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ

市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ

但^レ市^レ大^レ寺^レ以^レ多^レ門^レ廣^レ矣^レ余^レ以^レ列^レ系^レ之^レ

一公方極^レ市^レ未^レ

市^レ院^レ未^レ同^レ日^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ
市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ
但^レ市^レ大^レ寺^レ以^レ多^レ門^レ廣^レ矣^レ余^レ以^レ列^レ系^レ之^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ
市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ
但^レ市^レ大^レ寺^レ以^レ多^レ門^レ廣^レ矣^レ余^レ以^レ列^レ系^レ之^レ

一同八月朔日^レ市^レ順^レ日^レ

公方極^レ市^レ未^レ肉 市^レ院^レ未^レ同^レ日^レ

未^レ致^レ 市^レ後^レ駕^レ同^レ年^レ九月^レ日^レ

一寛^レ永^レ和^レ十六^レ卯^レ年^レ八月^レ日^レ

市^レ本^レ九^レ日^レ市^レ未^レ市^レ大^レ慶^レ長^レ十^レ年^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ

市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ

一寛^レ永^レ和^レ十六^レ卯^レ年^レ八月^レ日^レ

市^レ本^レ九^レ日^レ市^レ未^レ市^レ大^レ慶^レ長^レ十^レ年^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ

市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ

一寛^レ永^レ和^レ十六^レ卯^レ年^レ八月^レ日^レ

市^レ本^レ九^レ日^レ市^レ未^レ市^レ大^レ慶^レ長^レ十^レ年^レ

市^レ常^レ傳^レ市^レ三^レ十^レ四^レ年^レ

市^レ殿^レ憲^レ市^レ燒^レ失^レ

大移り

中平九二九とも不義焼失信

申引 西九下

渡市

寛永十八年九月廿四日焼失

一 同月廿日今度出火有及風雨の
多し依りて火を焚くに所無焼失
信 作月内常常り所無焼失
松浦肥常より以て信常より人
家来しととの陽所より火を
焼くを所来し信常より信常
より信常

作信

一 同年二月廿六日奉り月額焼失
万石より信常焼失信常より
九百石焼失信常より信常より
信常より信常より

一 同月十日諸大名奉り月進初之年

減少 作信

一 同井雅樂源其外老中赤毛額焼失
信 奉信常より信常より信常より

一 同年九月九日信常より

一 中平九二九常信より信常より
松平大智より信常より信常より
松平目より信常より信常より
九百石より信常より信常より
信常より信常より

一 今度出火より信常より信常より
信常より信常より信常より
信常より信常より信常より

一 明暦三酉年九月廿六日松平信常より
細川越中より丹羽信常より信常より
信常より信常より信常より
信常より信常より信常より

作月久世出金書四書信想東の
作月

一 尚君

沖本九英上ノ節口通具申ハ
書上ノ書美多ハ

一同成年七月三日方作方改元正月
十三日香元ノ一組ノ同成元金書
作月ハ

一同年三月十二日

沖本九二凡ノ節口通具申ハ

一同年八月十日方作方改元正月
口書信今且書改元月始ハ口書
松本如賀書

一同年八月八日大消改始ハ口書

作月ハ口書改元月始ハ口書

松本如賀書

一同年八月十日方作方改元正月

沖本如賀書

一同年十月十日方作方改元正月

松本如賀書

沖月見家来平安安席書信最
時服十長及系要村用情教書
時服六宛書下其外家来順功
有

一同年八月十日方作方改元正月

沖本九如賀書

一同年八月十日方作方改元正月

沖本如賀書

沖本九如賀書

沖本如賀書

一同年九月朔日外橋田河川口附近
四番寺（寺名）新築（？）

虎河門 市橋 繁榮橋
節達門 浅草門 小倉門
牛車門 市橋門 赤坂門
玄坂山藏寺前

一同月八日雨（？）上別

市本九下市橋後通（？）西九大水
橋田門下（？）橋中門（？）至園市
大橋（？）通（？）入市（？）三家方
（？）方（？）大（？）點（？）

一同月（？）名（？）物（？）

（？）（？）（？）（？）（？）

一同月（？）門（？）上（？）橋（？）田（？）浦
（？）（？）（？）（？）（？）

一同月七日 市橋後通（？）西九大水

（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）

一同月八日 市橋後通（？）西九大水

日光（？）市橋後通（？）西九大水
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）

一同月十二日 市橋後通（？）西九大水

檢校（？）檢校（？）（？）（？）（？）（？）
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）

一同月九日 市橋後通（？）西九大水

日光（？）市橋後通（？）西九大水
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）

一同月八日 市橋後通（？）西九大水

日光（？）市橋後通（？）西九大水
（？）（？）（？）（？）（？）（？）（？）

日 作月山の家方八分厚南
金徳大名思ひく上綱内護光
六百名以下連日名を今武西元
上綱以下百餘を今武西元
上綱徳大名以下三月内解順
子外を並余上綱く分服
三ツ武ツえ多や

一 天保十三年辰年五月十日

市井丸を願ふ出火不織巾袖矣
西丸に 雁市四番傳想東丸并
太炊次郎 作月若年若大忌
主膳山勘定より柳原主計次
以迄東丸の地 作月若年若大忌
東丸の地田前屋敷より若年若大忌
篠山抄澤より外法次郎
作月若

一 嘉永五年六月廿二日

西丸不織巾袖矣 西丸
右大為柳 市井丸 雁市

一 安政二年十月十七日

市井丸不織巾袖矣 市井丸
西丸不織巾袖矣

大保十五年四月廿日用賴月日
宋女私上名公同女一日以清元海

大市初柳 市院号可蘇

文恭院柳与有日 作名同家

同唱名第者涉結以叔後
以聲公承公得此後名同公上

松橋常家

高室公傳

四月廿日

以清元

書面 市立世中

市立名之文公八可傳末以矣

市院号之文字八致遠無以矣

市立之傳

同年九月十日賴大月月初庭夜
名公同女一日以清元海

今復

大南新報 卽院号云云

文恭院極少
作此像

冒稱之法多有以假亂真

收口錢之小為正以應至寶

望

前

松平紀伊守家康

乃

送友入夷

書面之通ハ彼以方を以

嘉永五年春、通員外郎、同

浮海者必系中流愛九山下居愛

言田池產桑柘——百月以上六箇

厚、（一）飛塵、（二）上、（三）以、（四）行、（五）重、（六）實、（七）

上卷下卷之三

上哲不為然也

此書蓋必所不棄也且復中焉了

以素養此何食也思夜中上

諸人共進蕭公以爲大行皇帝
 子也。不若爲之以終以公以終也。

子不辨以公
子不辨以公

たけなす

六月廿四日

清江

書面之紙張乃大急造紙也

七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

附席の老翁と云ふ所より又

嘉慶六年七月應机用方
於九月廿八日入山月十日會見

公義を床机に何れも取合す
其儀の事定まり又懐信は
何故位と相用なる哉此等
兼ふ如く再立成は原由内
四箇合ふ以上

本多豐後守家康

兼看墨迹

符脊

九

書面之通紙乃良信瑞之

存之以家公舊床枕用裝

但何如及以之爲凡世用之乎哉

難及後以

朱書

弘化三四年年

閏九月十日

一 今朝松葉停宿多後日家未歸
 藤公今日秋之山第途中述
 意出山後少人海之舟
 多相述言秋之波意名十一
 千一紙同錦上上札有
 沖持公

今朝松葉停宿多後日家未歸
 藤公今日秋之山第途中述
 意出山後少人海之舟
 多相述言秋之波意名十一

帝鑑之間定

一 不暇言不依仙策二意然任以
 神古以著世動之良乃沙之
 依以直動以

嘉和三年八月十日

進物之定

作身以節

二箱 廿日

市販山口上

望色之常狀端

二箱 五百元

涉老中核

涉大老校
涓涓一涉

男

清例清國棟

同

一箱
二百

卷四年考

一箱 二箱 三箱 四箱 五箱 六箱 七箱 八箱 九箱 十箱

市成代

一折
盲走

涉例
允
松

百步位

交署一抄

寺社名記

以奏者舊本

四留書集

大正四年

田子東坡

口口口口口口

大田

仁恩田

孫子兵法

少欽堂

以傳收一袋
同以

以袋色一袋
以袋色一袋
一袋百正

同以
生者一抄

以袋色一袋
以袋色一袋

干鯛一箱

相掛之威
同

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

以袋色一袋
以袋色一袋

正
以袋色一袋
以袋色一袋

二
以袋色一袋
以袋色一袋

三 朔
十八日

壬午 為九

四 朔
十八日

壬午 為九

五 朔
十九日

壬午 為九

六 朔
十九日

壬午 為九

七 朔
二十日

壬午 為九

八 朔
二十日

壬午 為九

九 朔
二十一日

壬午 為九

十 朔
二十一日

壬午 為九

十一 朔
二十二日

壬午 為九

十一 朔
二十二日

壬午 為九

中國

丹波 丹波 但馬 因幡 伯耆

出雲 石見 隱岐 美作 備前

備中 備後 安藝 周防 長門

西國

筑前 筑後 豐前 豐後 肥前

肥後 日向 大隅 薩摩

口國

阿波 讃波 伊豫 土佐

關八州

武藏 相模 安房 上総 下総
常陸 上野 下野

以榎

幸中不埋一て水とりの榎中

埋榎

埋榎六中と埋り白砂を取榎中

越石

先代程村を築造りて停着候と訪りて身
越石とて八折村より地を他村より采
新地といふ以て越石と唱りて
昔之

十二月晦日

一今夜席より昨年傳達より取立

吏吟稿を

三方蒲紙

一枅一かち栗一敷のふ一海を

一布一疋を一日他一かち

一混布一敷棋一積儀一本

一うしろ一とち一蜜棋一餅斗

一十妙川

出席席

本書院 小書院 四親給 大膳

中膳 別席 四膳 四膳

工部上 中書上 中書下

他日涉廣之秋

文化十成四日九日

傳而後入山同武王黃龍池上
 平山寺上以金箔裝成身佛原書是
 此教之如右陽所授一如左藏教傳
 以原之及中之口書卷之不為成
 原升元年大月身之同方一書板
 秋山因住此處所上四宅一以於
 了成中口書卷方一通

宣統四年

遠方、神は等閑と云ふ事、亦不慮
 其至、一類、方々、存哉、故、於、通、
 以、終、り、方、他、故、の、如、今、日、定、し、所、終、
 後、同、石、仕、候、と、い、ふ、事、終、
 以、来、の、故、何、事、も、仕、候、方、と、い、ふ

おまじりくしおきおきおきおき
おきおきおきおきおきおき
おきおきおきおきおきおき
おきおきおきおきおきおき

忘二十日ハ 二十九日

忘二十日ハ 十一日

忘二十日ハ 七日

忘二十日ハ 四日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

忘二十日ハ 二日

老中勤役中及冬お休
文化二七年三月廿二日

東玄志原西原書付書

張向人書付書付書付書付書

年主主主主主主主主主主

服女子不徳方主主主主主主

以来右主主主主主主主主主

中主主主主主主主主主主

以主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

以主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主

朱書

三奉引文宛分

寺社 寺社願

関八州外彩願 寺社願宛宛

関八州内彩願 寺社願

江中

寺社願宛

町奉引文宛

寺社願宛 寺社願宛宛

関八州外彩願宛

関八州内彩願宛

町奉引文宛

一 寺社願

寺社願宛 寺社願宛宛

町奉引文宛

一 寺社願

寺社願宛 寺社願宛宛

町奉引文宛

一 寺社願

町奉引文宛

本文

寺社願 寺社願宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛

一 寺社願宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

寺社願宛 寺社願宛宛

二日十日廿二日と武日と云々御二三年
八月廿二日青木新公と坊主合開會
出度始々宋園七左衛

嘉和二年八月

寺社家札下

日光山門主通符一紙
御月見以上有途中より
御四合款一紙布衣以上
御差列より有一紙より
御知は悉以上

八月

浮世長生坊

四書面一紙上野松満寺
別紙一紙中長信一紙
書付字一紙以上

松平石東宛

日光山門主通符一紙
御月見以上有途中より
御四合款一紙布衣以上
御差列より有一紙より

以美別也有一以爲四等未
 布衣以上一而中一依之に
 以途中四出各一衣也
 以中一以布衣以下
 而月身以上一衣也
 衣接物以中一衣也
 中一衣

梓火之見武之節也

以收屋爰以梓木爲之而後是
不若以木爲之

山書面大、見、改、屈、交、平、
梓大、見、与、幸、故、以、有、不、得、之

武王の武建業の事も
不苦るを幸ひ候へり
十月 井ノ口

京尹吏規
一書來凡例

父母 養父 養母 子 媳

叔父叔父 姪姪 才才 妹妹

孫長斧

子長曰見物卜
少日男婦卜
物 我之男
男女卜

我呀妹——

賢男
兄我弟
妹

胃子 我中 見 快子 我中
家女房 妻ノ下

貴父寸婦女之取り違へ城以
未お怒因養父死す貴母ノ名目
云々

元和六年

同姓毛利法廣が貴父と云ふも體
願候も同人養母方より云ふ養病
未相敬宗貴父死すは侍傳候も
方より貴母が如病氣に致
死する候は貴母忘す云々
云々

毛利法廣の家系

九月十二日

月見 啓

自札

書面一通ハ貴父之婦女に取

以述る増儀未お怒因貴父
死すは養母ノ名目云々
服忌云々

神社佛閣より来給ふ節
口使ひ減ふ一紙

元和六年六月十日口頼大田月
延仔買ふ候も云々同午首以清兄
遠留本家又ハ親戚より我輩
神仕佛閣より来給ふ節持給
先役給長柄傘不定一色乃持
張給付内云々云々減ふは云々
或ハ馬より給上不着用持給
云々付付也云々有畧仕事由物
内外云々付付云々不若儀持給
云々

六月十日

小田原守

小田原守

以済礼

書名供人数は海老巻にお概
石と云はれお湯のふ復た信
越りては用着はる常供
換りては紙不替

何賀袴小袴一欠

同日

一馬岡柳下巻の済礼

何賀袴小袴一欠因縁は着る

所装束は唱へる

布紙心海狂を紙取角の上

山を居る家

六月十二日

小林辰彦

神君様御教訓

人の一生はまをを願ふてをを
道とのかくいつく魚の心を
我れを思へば是なり心小
るみ起るはらんきうく
と記を思ひをを下りて
ぶ一長久の基ひ好く歌を
勝来斗一あてはるる
とあてをを長きも小
に紙せめて人と
来てはるるをを
此条は中川某の付物と
之ともく人の教のあらは
る

神君様御教訓

寛文明院

義通

和歌六七年六月十九日

口勸業園主

川村信房

殿上納令長四用達年春
出積相勤り身別候に候と
多用迄勤中願斗目着周
該り地力一六市刀
沖光

森田實盛

麻生清治

芥川六三

三村信房

鈴木重信

三谷三九

本庄吉清

文化元年

縁起取扱方伺候内

一 淨目見以下上下着周七市刀

身柄者共其刀内候中

淨目見以下縁起取扱方

順さるもの縁起取扱方

母田安

寶曆九年土月廿八日

大月廿八

母田安の場不知子手取替
難成他中安子手取替
延享四年中安子手取替
永曆初年安子手取替
不若もい解方

寺前情瀬内書板

大月廿八

大月廿八石以上浪迫手取

崇恩堂預捐以收是速成爲
陽明年貢地也也預以爲
年貢地也預以爲年貢地也
年貢地也預以爲年貢地也

并願展補格憐寬

一、八百坪
二、六百坪
三、四百坪
四、二百坪
五、一百坪
六、五十坪
七、二十坪
八、十坪
九、五坪
十、二坪

以上各坪，均係在河內縣境內，由該縣政府撥充，作為賑濟之用。其數目之多寡，視災情之輕重而定。此項賑款，係由中央及地方財政共同負擔，以資救濟。

光緒二十二年六月朔四番元
新銀屋發賣以中後碎數
扣減以足

一、九百坪 中土夏 一、七、四坪 千石
一、六、四坪 九百石 一、三、四坪 二百依
一、二、四坪 百零依
布、小姓、組、書院、番、二百坪、

宣統十二年四月十日

右通判監政司潘廷康書

一、
一、
一、
一、

悔數或曰悔之終下以者
 以緒願 以細之 小童信分以六六
 以作事未功 小童信分以六六
 以學以道 以多財 以多事番

留主更以家私爲當 上託知縣 以作質
口稱佃役 大之當 以侍 漆書
以爲券而人 進也 爲主書 植桑麥以
押以爲執收 以員役 以雇方 以掃
以能貯麥以 黑鐵以 以中間以
以小人以 以駕籠以 欠霜露以
小當法方 吟味以

悼數百悼以下百悼以上哀以老

學問有勤奮
小童佳世後
以書傳

坪教厚之京者

依徇同公 浮空如畫夜 小童信
吟味爲夜 係方氏 沈方氏
伴賀者 大箇不收 只作事夜
巖巖畫夜 小童信方改改不收

以香番下番 任如橋吟味改
進上南次下番 以浪車方書改
寫士月以玉花番下番

坪數拾坪以上者

—

以中間以火六天以普信乃不致
以掃除者仕丁小吏並以甫
口以者以習通於口門書人
吹上量信者吹上立庭者
墨缺者小童信方沒收相書
右一述向後所費以之民年刻盡
布一介三三年以前元祿二面年
在作依以格呼多てはお流
屋敷相對整々々々

寶政元年八月更田旅堂元南合
清屋安祥以法之年お主親終
お對整潔より一旦お對整ぬと又

相對電報の添付上年抄送の上を願
了す

切符送致の添付相對電報の添付を希望
す

百石以上
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

六百石以上
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

三百石以上
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

二百石以上
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

百石以上
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

百石以下
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

市町村別
作数廣く八百坪位
積くハ中坪位迄

廣くハ中坪位迄
積くハ中坪位迄

廣くハ中坪位迄
積くハ中坪位迄

石ノ内時ノ動掘ノ多ク四里ノ多ク
石ノ多クハ相對電報の添付を
希望す

同日

五里ノ人数決定

作付以内書付足

一 然るに未動ノ節徒有負数不度

取寄ルハ中坪位迄

作付以内書付足

作付以内書付足

作付以内書付足

作付以内書付足

一 通年六里ノ中坪位

作付以内書付足

作付以内書付足

順月三日午刻，小部軍城子親於
綠者卜龜於順月
元祐十七年六月

同

一 延多禮 順治三年二月十二日

終年無恙

一 沛侯王始國六年二月卒晉小荻

江成—高社の智

一、成立之遠的同志年八月廿日

上巻

一 水馬河二十年七月十三日大川筋

工變有

一、張射 上修完始重保十一年年十月

十月

一 寶定形方申年十月八日書松澤鋪
と張来始る

男

大事之節見於此

親子 兄弟 舅 小舅 伯翁

甥姪、祖翁、
僕牙、聲

張氏年廿
作

男

恒潜大概

一正位、神極位、有、人、之、言、

一、

一位一位人極位之

大政大臣と知一

三、後有國大臣と知一

二位大申張之知

區三位 恆二位 宰相中將

知

要領、少將と知了

朱書

- 一 後四位 正五位ハ侍從ノ知卿
- 一 後三位 正三位ハ從五位ノ知卿
- 一 四位 正四位ハ從四位ノ知卿
- 一 五位 正五位ハ從五位ノ知卿
- 一 六位 正六位ハ從六位ノ知卿
- 一 七位 正七位ハ從七位ノ知卿
- 一 八位 正八位ハ從八位ノ知卿
- 一 九位 正九位ハ從九位ノ知卿
- 一 十位 正十位ハ從十位ノ知卿
- 一 十一位 正十一位ハ從十一位ノ知卿
- 一 十二位 正十二位ハ從十二位ノ知卿
- 一 十三位 正十三位ハ從十三位ノ知卿
- 一 十四位 正十四位ハ從十四位ノ知卿
- 一 十五位 正十五位ハ從十五位ノ知卿
- 一 十六位 正十六位ハ從十六位ノ知卿
- 一 十七位 正十七位ハ從十七位ノ知卿
- 一 十八位 正十八位ハ從十八位ノ知卿
- 一 十九位 正十九位ハ從十九位ノ知卿
- 一 二十位 正二十位ハ從二十位ノ知卿

武家階級要略

一 三位 正三位ハ從三位ノ知卿
 一 四位 正四位ハ從四位ノ知卿
 一 五位 正五位ハ從五位ノ知卿
 一 六位 正六位ハ從六位ノ知卿
 一 七位 正七位ハ從七位ノ知卿
 一 八位 正八位ハ從八位ノ知卿
 一 九位 正九位ハ從九位ノ知卿
 一 十位 正十位ハ從十位ノ知卿
 一 十一位 正十一位ハ從十一位ノ知卿
 一 十二位 正十二位ハ從十二位ノ知卿
 一 十三位 正十三位ハ從十三位ノ知卿
 一 十四位 正十四位ハ從十四位ノ知卿
 一 十五位 正十五位ハ從十五位ノ知卿
 一 十六位 正十六位ハ從十六位ノ知卿
 一 十七位 正十七位ハ從十七位ノ知卿
 一 十八位 正十八位ハ從十八位ノ知卿
 一 十九位 正十九位ハ從十九位ノ知卿
 一 二十位 正二十位ハ從二十位ノ知卿

朱書

本年中勢を漸次とて同合の如き
書後より然

四國書局方圓記と内書後

天保十四年十月廿日四國書局
丹波書後々松尾伊豆書後元と書後元
丹波書後々今切津園胡と書後元
通書とて十月十日丹波書後々松尾
一今切津園胡通書と書後元
筒と大小と抱負教と書後元
但書局と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元

四國書局方圓記と内書後
丹波書後々松尾伊豆書後元と書後元
丹波書後々今切津園胡と書後元
通書とて十月十日丹波書後々松尾
一今切津園胡通書と書後元
筒と大小と抱負教と書後元
但書局と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元

天保十六年八月廿
一辰と書後元と書後元と書後元

四

伊豆書

是

丹波書後々松尾伊豆書後元と書後元
丹波書後々今切津園胡と書後元
通書とて十月十日丹波書後々松尾
一今切津園胡通書と書後元
筒と大小と抱負教と書後元
但書局と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元

下札

書面と通書と大角書と書後元
丹波書後々松尾伊豆書後元と書後元
丹波書後々今切津園胡と書後元
通書とて十月十日丹波書後々松尾
一今切津園胡通書と書後元
筒と大小と抱負教と書後元
但書局と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元
書後元と書後元と書後元と書後元

同月十日

一 乃て書付る月より也

と

作書

と

是等の大筒車を、作らば
多し上なるもの多し
通ひし、しつゝ、しつゝ、
是又、しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
書面、しつゝ、しつゝ、

和歌六癸丑年十月七日

一 乃て書付る月より也

と

作書

と

か、しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、

四月、作書

しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、
しつゝ、しつゝ、

二月

一 乃て書付る月より也

乃て書付る月より也

壬申六月十九日
一方以書付 市持帛

以人

市持帛

按志酸所停次長安縣安
致改名
市月國之舊也 市月以者
月書

因六五年六月十日

一方以書付 市持帛

市持帛 市持帛 市持帛
因六五年六月十日
市持帛

是

市持帛 市持帛 市持帛
因六五年六月十日
市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

市持帛

以別紙呈書取一通
 存之即常需用之
 以後不若節之
 一從仔細仕
 六月 一志邦之輝

嘉永四年十二月廿九日在
 山葵者番

水之殿
 中山侍候書
 尾張殿
 成瀬年人云
 竹腰之殿
 紀伊殿

白後瑞午至陽殿書付殿
 右一通書
 右一通書

嘉永四年十二月廿九日在
 山葵者番

方南起物名屋年一涉役後
肉服形上二以役形出役中云

二月六日

一方一也一書付作役形中下
子紙云云は是役形中下利来
仔質中役元一也云

已

作役了

中一役形

中一役形

尾張殿形

成頼集念

竹腰形

能作殿形

水野大依吉

安後院御書

布一而一白後云

沖田書下中下云

信出中云

市持様同其外有別名云書云

形一返孔出中云

一甲中云一外主府云然中云

以中云檢束書出中云

但中云表出中云中云

差紙中云

二月

同月三日使布云中云

已

大和

已

中云中云中云中云

中云中云中云中云

中云中云中云中云

中云中云中云中云

嘉永七年甲寅年四月廿五日刻
大宮寺所
仙洞寺所
林表寺所
中五寅上中下長者町西大宮寺
本通鏡板以中
天明八年八月高安年運六拾年
目

今役檢別 恩云々
順徳院柳三回忌清江集一巻
市一巻被箱草書懷取相用紙
此 作紙

大谷小治少佐少佐数

五千五百八拾八坪余

大谷少佐少佐数

七千五百八拾八坪余

西条少佐少佐数

一千八百五拾二坪余

能達少佐少佐数

一千五百五拾二坪余

浅草少佐少佐数

二千四百五拾二坪余

龍王少佐少佐数

一千八百五拾二坪余

高附

高附
水所也羽衣花

高附

高附
吉田少佐少佐数
一千八百五拾二坪余

高附

高附
戸田周幡花

高附

高附
遠方俱馬

一 神威 依書付 神威有
公用方公書付 以東宮方公取印
中無子之印も取印も取印も取印も
中無の印四月番公の印

天保六年四月廿六日

一 以類焼付 金多為焼付 上今類
同年九月十九日

一 沙月番 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付
二枚連 沙月番 金多為焼付 金多為焼付
二枚六枚連 沙月番 金多為焼付 金多為焼付
沙月番 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

八月十六日

山陽
四用人

天保六年九月十一日

一 三羽足助中 沙月村字海院 金多為焼付

沙月村字海院 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

同日

一 三羽山中 沙月村 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月村 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

沙月村 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

中上

同年十二月十九日

一 大樹寺 山内位樂院 金多為焼付 金多為焼付 金多為焼付

考合

米石満泰

牧野順三郎

石一介の自筆
名希同調

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

十二月廿六日

石一介の自筆
石一介の自筆

天保六年十一月廿六日

一、石一介の自筆
石一介の自筆

二、石一介の自筆
石一介の自筆

三、石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

安政二年八月十日

一、石一介の自筆
石一介の自筆

大月

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

石一介の自筆
石一介の自筆

朱書

安政二辰年九月廿四日買付三郎藏

五月十八日附札

一
公義市設不向英

順若柳方濟之家柳方濟只柳德標

留く帝舎符ね建は車と兼白

何處車馬陽亦多道遠矣

市會存云……市用車……

附錄又云車引者中少以爲奇

車道場多しなり

清會存書清園集

中後寺經卷

但市會存之市用車中

西條以海路車、大御用車、

中少以捕押不苦役之

一、
此
部
本
部

即會審を以てり以て又々

市金部口兄是...
市金部口兄是...

本
江蘇省立第一中學

卷之八

修其德

石之糸々、葡萄、紅、以、紅、五、成、以、順

辛巳上

本字發音

九月廿日
川未助齋

免

一書の
子

書面

公之若也。用舍存亡。車將病。

又車引者斗ふなり候と云

事

以濟九

書面に於て汲水々々

中用之元裏板平者一而千以爲

陽明々々極平校腎及金壽

下流の「振平」は「平」音同「金」音
「平」又「振平」は「平」音同「金」音

以重慶爲開陽水之樞下取開陽

山重水复疑无路

有

安政三年十二月十五日吉方社司祭神味
物圓收小候指席席指口同会以文
口口口口口口口口

神主又志候除末上候は編組
又志春子未上候 黄信以
子辰主人方口同会中及
男及以子辰主人得并至所
出候口同会中上候上

水野新保吉屋

十二月十五日

松本 記

山

同会中不及

若州横田内

安政三年八月十七日

一 今所記は安政三年八月十七日

若州横田内 寺禮部より
寺より寺に同会中及
寺より寺に同会中及
同会中及

賞

天保十二年

寺先代横田寺禮部より

寺先代横田寺禮部より

寺先代横田寺禮部より

寺先代横田寺禮部より

寺先代横田寺禮部より

寺先代横田寺禮部より

八月

小寺附連うま上唱て附希うま
 六附連うま上唱て暮合ふ附うま
 九附連うま上唱て暮合ふ附うま
 工中別々後方附希うま上別
 中附希うま上別々心得ひ事
 打ひ希う下別々心得ひ事

年中衣服附

正月

元日 六時 装束
 二日 六時 装束
 三日 同長衣位官ゆれ
 同夜 中儀初七時附長
 四日 例別の一め麻
 五日 同創
 六日 六時装束寺結ゆれ
 七日 六時附の一め麻
 八日 今月々平服
 十日 上野
 十一日 六時附附斗目麻目具と平服
 十二日 例別 附斗目
 十三日 六時附創
 十五日 紅葉山
 十七日 紅葉山

廿四日 廿時のりめ麻
廿八日 廿時のりめ麻
晦日 上野

二月

朔日 合時 厨子目麻
日老門金津對顔のりめ麻
十日 六時 辰紗麻
月次沙紀老をきき
十八日 六時 辰紗麻

三月

朔日 例別 辰紗麻
二日 六時のりめ麻
十日 同 辰紗麻
月並沙紀老をきき
十八日 例別 辰紗麻

四月

朔日 六時のりめ麻
今日 殿中をきき不用
十日 六時 辰紗麻
雲津使生をきき
十七日 卯葉山
十八日 上野
十八日 六時 辰紗麻
晦日 芒

五月

朔日 六時の辰紗麻
六日 六時の辰紗麻
八日 上野
十日 六時の辰紗麻
月並沙紀老をきき
十七日 卯葉山

亦八日 例別條帷子麻

六月

朔日 土ッ付 條帷子麻

十五日 芒

十五日 例別條帷子麻

十五日 土ッ付 條帷子麻 長加祥

亦八日 土ッ付

亦八日 例別條帷子麻

七月

朔日 土ッ付 條帷子麻

七日 田

十五日 紅葉山

十五日 例別條帷子麻

亦八日 土ッ付 田

八月

朔日 土ッ付 白帷子長

十五日 田 條帷子麻

亦八日 例別 田 例

九月

朔日 土ッ付 販紗麻

八日 土ッ付

九日 土ッ付 販紗小袖長

乃在以上衣色万所事花を二不保

十日 今日ノ足袋用

十五日 土ッ付 販紗麻

十五日 紅葉山

亦八日 例別 販紗麻

十月

玄緒 夕七半 の ぬ長

和漢名數之存書板

奈良東大寺大佛 朝野君義載白
結跏坐高五丈三尺五寸面長八丈
廣九尺五寸目長三尺九寸口長一丈
七寸耳長八尺七寸肩徑長二丈
八尺七寸掌長五尺六寸中指長
五尺膝厚七尺螺形九百六十六
銅重三萬九千五百六十斤白鐵
一萬二千六百八十八斤鍊金二萬三千六
兩炭二萬六千三百五十六斛大佛殿東西
二十九丈廣十七丈 南北也

京都方廣寺大佛 結跏坐高六丈
面廣七丈七尺長二間口廣七尺五寸
長五尺七寸鼻高五尺五寸膝厚六尺

耳長二丈一尺五寸兩膝廣五尺一寸
中指六尺大佛殿南北四十五間二尺
五寸東西二十七間五尺五寸棟高二
五間柱數九十本柱徑五尺五寸

日本國中寺院惣數

天台宗	千八百二十ヶ寺
淨土宗	拾四萬二千ヶ寺
禪宗	五萬百ヶ寺
真言宗	五萬千百ヶ寺
律宗	九千百ヶ寺
法相宗	六千二百ヶ寺
時宗	六萬七千十六ヶ寺
大念佛宗	千三百十ヶ寺
法華宗	八萬三千二十ヶ寺
一向宗	十四萬三千五百ヶ寺

内

西 四萬五千十八ヶ寺
東 八萬八千零四ヶ寺
高田派七千七百二十ヶ寺
佛光寺派八千七百二十ヶ寺
以上

天台宗

淨土位

青蓮院

淨土宗

仙洞淨土位

知恩院

真言宗

仙洞淨土位

勸修寺

法相宗

仙洞淨土位

一乘院

天台宗

仙洞淨土位

龍井寺

天台宗

仙洞淨土位

曼珠院

天台宗

淨土位

昆沙門堂

天台宗

仙洞淨土位

曼珠院

比叡寺

禪宗

仙洞淨土位

大聖寺

禪宗

仙洞淨土位

寶鏡寺

禪宗

淨土位

曼華院

宗義帝

淨土位

光照院

禪宗

仙洞淨土位

靈隱寺

禪宗

仙洞淨土位

圓照寺

禪宗

淨土位

林丘寺

法相宗

有願院

中官寺

禪宗

淨土位

慈受院

淨土宗

淨土位

三寶院

淨土宗

淨土位

法華寺

日蓮宗

伏見宮

瑞龍寺

禪宗

淨土位

慈持院

禪宗

日野宮

寶鏡院

天台宗 龍王寺 龍王寺 本光院

攝家門跡

真言宗 迎清殿

太覺寺門跡

仙洞寺

春陽寺

慈光道觀王

法相宗 三傳殿

大東院門跡

天台宗 淨土

真相院門跡

真言宗 龜岡殿

三寶院門跡

龜岡殿

同 新門

真言宗 三傳殿

隨心院門跡

真言宗 淨土

安井門跡

准門跡

一向宗

西本願寺

一向宗

東本願寺

一向宗

同 彩門

一向宗

與正寺

一向宗

佛光寺

一向宗

尊修寺

一向宗

綿藏寺

一向宗

同 彩門

石光達寺 寺有山門 山門比荒
所新撰家門跡 准門跡 龍王寺 本光院
肉緣相續 寺有山門 山門比荒
所新撰家門跡 准門跡 龍王寺 本光院
肉緣相續 寺有山門 山門比荒
所新撰家門跡 准門跡 龍王寺 本光院

在漢之寺々々准門録一而余々々
 肉你相續勿傷之々々々々々々々々
 示書云書之儀々々々々々々々々々々
 玉觀之門の悟家門の准門の禁
 而明之肉々々々々院之生有之未
 觸之有之有之有之有之有之有之
 要個之儀々々々々々々々々々々々々
 之々々々々々々々々々々々々々々々々
 綿織寺之生有之々々々々々々々々
 云々々々々々々々々々々々々々々々
 禁之禁之禁之禁之禁之禁之禁之
 之々々々々々々々々々々々々々々々

九月

戒師之書

明和九年八月日先旨授戒師
 之儀々々々々々々々々々々々々々々々

一戒師之書者戒法之書

一灌頂法流之密教之書之書

但天台宗戒法二流之門戒壇之儀々々
 恒密之儀々々々々々々々々々々々々
 和蓮之秘儀々々々々々々々々々々々
 何儀々々々天台宗之儀々々々々々

一淨法儀之儀々々々々々々々々々々

方々々々流斗々々々々々々々々々々々
 三昧流
 青蓮流
 愛染流
 龍井門
 妙法流

朱書

真言宗大藏經

恒長院別當

金剛修院別當

般若院

金剛院

八大坊

藤倉

王子

莊嚴院

金胎寺

切通

土山別當

金

池院

大藏

新山宗

儀勢院持蓮

日臨院

東海寺

大德寺院

真珠院

大德院

玄雅院

天宮傳宗

靈雲院

大德院

解下寺

朱書

歐家

斗也

涿松寺

同宗

湯石

麟祥院

日蓮宗一破

谷中

妙法寺

水少
日遠
字

弱と

大衆寺

清海光寺額

漢章

日輪寺

佛光寺

下安

匡德寺

平山書所
天長

邳州

大系院

南山真賞
大和

凡

溪山亭

遂州府志

神田明神

芝罘大港

白山神主

中井丹後

神道方

吉川芳達

東嶽山因代

田代棹不遠

小川種彦

小泉出雲

古来の

大業

連秋所

何處

董东儒

上野槐南

朱書

日本國中
關三寺
淨土寺
後進三
真下寺

天台宗

龍王院

法華宗

佛頂院

一向宗

蓮華院

同宗

正定寺

曹洞宗

速成寺

東福寺
信光寺

信光寺

信光寺

關三寺
圓覺庵

白雲寺

總寧寺

石寺

三月四寺
大月寺

龍稜寺

大寺

大寺

大寺

根生院

大寺

真福寺

大寺

真福寺

大寺

松源寺

東山寺
關三寺

朱書

寧法
嘉福寺觸以
嘉福寺觸以

嘉福寺觸以
嘉福寺觸以
嘉福寺觸以

嘉福寺觸以

法華

海禪寺

芒

東禪寺

白銀

瑞聖寺

休川

海福寺

法華

唯念寺

法華

林念寺

樓南

沈泉寺

嘉福寺觸以

金剛之昧院

寂輝院

嘉福寺觸以

安養院

本王院

法華

瑞輪寺

下谷

若王寺

下谷

宗延寺

本所

法恩寺

法華

幸龍寺

法華

宗林寺

法華

兼敬寺

同宗

身正金蓮寺觸以
日蓮宗

永平園寺觸以
同宗

池上金蓮寺觸以
同宗一致

朱書

鐵城寺觸乳
同宗 勝者

同宗
觸乳
龍曜寺

九山
本妙寺

芝
長良寺

市川
妙國寺

市川
本光寺

後草
慶印寺

芝津明
金剛院

同林
西東山城
小泉南苑

東山兩寺觸乳
同宗 勝者

天竺宗

觸乳寺

右直觸乳下收入觸

但●触乳寺々々触乳寺々々

陽明寺長福院住之

院司

別院本町福長院住之

小計織部

惣持信玄様

平昌日白

松葉山藏人

同火々番

同

同官海

同

淨靈院海

其奈

將奈

朱書

備前松山

山田織部

神樂寺

田村八重

後主殿

痛本親貞

閑王

吉川三斗

同加波

敷兵庫

清公

楠木上総

詮左衛門

森田原

武田國泰

惠之院

瑞州

龍王院

東山

實龜院

長子

梅之院

武州

詮法寺

下谷

二月寺

明本

運徳院

湯殿

福中院

寶宗院

蓮壽院

高松

收長院

東山

東山

朱書

真念寺

同系

鞍馬寺光院寺教頭

・宝泉坊

鷲ヶ谷院小僧

高林坊

玉泉坊

小川町落移住

・和田内紀

洞雲軒住持

・利童院

慈覺院寺中風松

・貫之泉院

唐帝寺落移住

・中村月

平島岡安太師

・法雲寺僧

淨土寺僧

系内寺

江州落寺僧

春海

江州落寺僧

・長壽寺

北州落寺僧

・淨性院

伊川路町

墨紙落寺僧

・鈴木之殿

苗田系

梅林寺

八町落移住

・南岳寺

南岳寺落移住

・鈴木常刀

落移住

・鈴木藏

落移住

本巻下村

香取宮

香取宮

香取宮

香取宮

香取宮

浄瑠璃寺社
天台宗

法草

法草寺

目黒

龍泉寺

横江

覺樹院

隅田川

本母寺

本所

最勝寺

本下川

淨光寺

赤葛西願

今町村

三寶院

朱書

同順
麻骨村

観音寺

浄玄宗

目黒

依天寺

小松川

仲光院

板橋

永蓮寺

古我眞言宗

王子

金輪寺

伏見

永代寺

高田

放生寺

新義眞言宗

大塚

護持院

中野

寶仙寺

巢鴨村

眞性寺

牛込區

明神園

藏官寺

三川崎村

観音寺

虎ノ

普門院

志村
延命寺
大音村
常音院
仁音村
東福寺
長鳴村
正象寺
下留村
延命寺
上留村
正福寺
免有村
惠明寺
蓮留村
南院
枳野村

明王院
五石村
南藏院
川中瀨村
平門寺
西新井
熱持寺
金所
金蓮院
新田村
勝鬘寺
田
淨光寺
不念中村
密藏院
下留村
象院

禪宗源流

品川

新宿

寶蓮寺

小岩田村

正真寺

東又村

真勝寺

小谷野村

寶性寺

下平井村

梵明寺

八雲寺

安養院

洲崎

吉祥寺

英榮

廣尾

東海寺

天現寺

濱谷

祥雲寺

本所

經漢寺

牛馬

弘福寺

前合

泰雲寺

曹洞

梅場

總泉寺

浪谷

長谷寺

品川

海晏寺

深川

靈運院

日蓮宗一統

難目寺

法明寺

五位寺村

日慶寺

西内村

妙法寺

下総真間

仁法寺

東高麗一石村

城立寺

雲高願寺村

蓮昌寺

勝方流

品川

妙國寺

本門寺

他工

本門寺

勝方村

養源寺

中山

武利寺

安穩寺

西平願寺記

麻布

普福寺

西久保

光明寺

深谷

妙祐寺

武州八幡村

嚴正寺

東平願寺記

小岩川

新福寺

社人

珍森
八幡村

森田大系

修験

在平林川

愛宕信盛

吉山

風閣寺

山願分寺社
市井中

高拾三石余

高七拾石

高三拾六石

高三拾八石

高拾二石余

高拾石六斗

高拾石斗余

三河國幡豆敷寺町

康全寺

同國國於上町村

實入相寺

同國國於下町村

養壽寺

同國國於上町村

桂岩寺

同國國於上町村

不退院

同國國於同村

惠發寺

同國國於中町村

長久院

高八石六斗余

同國同於對持

光雅院

高七石

同國同於備高持

常福寺

高六石七斗余

同國同於八面持

真成寺

高五石九斗

同國同於少高持

西方寺

高四石八斗

同國同於同持

東禪寺

高三石六斗

同國同於同持

安樂寺

高二石七斗

同國同於三持

今源寺

高一石六斗

同國同於德高持

安養寺

同國同於對持

高四石六斗

同國同於德高持

若松庵

高三石余

同國同於德高持

信龍寺

高二石七斗余

同國同於同持

西光寺

高一石七斗

同國同於同持

福泉庵

高五石七斗

同國同於德高持

樂善庵

高三石七斗余

同國同於同持

内國寺

高二石七斗

同國同於德高持

向春軒

高一石

同國同於同持

法光寺

高四石七斗余

同國同於同持

阿弥陀院

高田石斗

同國同教寺傳持

藏泉寺

同國同教寺傳持

高田石斗余

龍門寺

同國同教寺傳持

高田石斗余

西福寺

同國同教寺傳持

同國同教寺傳持

高田石斗余

道真寺

同國同教寺傳持

高田石斗

修徳寺

同國同教寺傳持

高田石斗余

修福庵

同國同教寺傳持

高田石斗

修福寺

同國同教寺傳持

高田石斗

普昌寺

同國同教寺傳持

高田石斗余

福徳寺

同國同教寺傳持

高田石斗余

養林庵

同國同教寺傳持

高田石斗

同國同教寺傳持

高田石斗

修徳庵

同國同教寺傳持

高田石斗

普昌坊

同國同教寺傳持

高田石斗

松寛庵

同國同教寺傳持

高田石斗

清秀寺

同國同教寺傳持

高田石斗

西真庵

同國同教寺傳持

高寺斗并

地蔵庵

於合石斗并

淨慈寺

高寺斗并

觀音院

高寺斗并

東光寺

高寺斗并

福生院

高寺斗并

瑞用庵

於合石斗并

淨慈寺

高寺斗并

宝地庵

高寺斗并

東白寺

高寺斗并

源水庵

高寺斗并

宗用庵

高寺斗并

妙音寺

高寺斗并

蓮庵庵

高寺斗并

香秀寺

於合石斗并

淨慈寺

高寺斗并

新築院

高寺斗并

石原院

同國國於能子村

高武拾石

祐前願

牧市進

同國國於公府村

高武拾石

六之紋願

石川主税

同國國於能子村

高武拾石

祐前願

角井澤馬

同國國於能子村

高武拾石

義経願

石永要人

同國國於能子村

高武拾石

祐前願

畠田圭三

淨永寺會

又拾武寺

淨永寺社家合

七羽

一紙市願

淨永印地寺

淨子院寺

一淨子院寺

淨子院寺

何寺淨子

何寺淨子

石骨寺

石の又と願ははるの依家

淨子と中より其寺

淨子と随信はる寺僧侶

山経公は願はる寺

六月一日

大仲寺

關府曹洞宗

関

中条下三山 公家寺余
山号 安國山

中条下三山 長昌山

中条下三山 太平山

下徳國寺前山

徳富寺

武州寺前山

祐親寺

下徳國寺前山

大中寺

府

中条下三山 山号 妙光山

中条下三山 山号 万年山

中条下三山 山号 万年山

石上寺院号

武州寺前山

徳富寺

武州寺前山

祐親寺

武州寺前山

大中寺

南都七大寺書

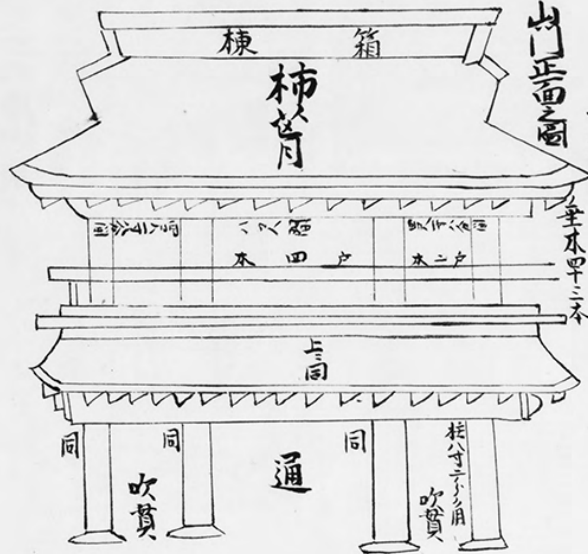
有約七寺

東大寺
西大寺
興福寺
元興寺
大安寺
聖大寺
足安寺
一南都七大寺全別院志西大寺塔
斗中防く同前項く寺勢一
坊中く文記いふり日中

寺院化奉に寺化く車

山門書圖

聖本甲二不



地際より棟迄高サ貳丈七尺寸

山門横之圖

垂木三本

垂木十本



ヒナ木一段ハ圖之通不若二段アリハ
不相成假

津象印
高二拾石

遠州長上郡
津象印
耳露寺

安永七年井上河内守
一三門ハ三所ニ分ル
山門ハ今唱所ニ改メ三門ニ改メ
耳露寺

諸國市園所儀書上

園所

箱根

荒井

福嶋

右三處市園所儀書上
主事市園所儀書上
何國何儀書上

諸國市園所儀書上

遠東市園所

主事市園所儀書上
主事市園所儀書上
主事市園所儀書上
主事市園所儀書上

三月

朱書

法蘭西國新書

○ 以下重午所國所

△ 以下重午所國所

武洲萬勝殿

一 武洲房川渡中田 信宗米倉

同國同族

一 金町松戸 同 人

同國同族

一 小岩市川 同 人

同國多摩殿

一 小佛 同 人

同國多摩殿

一 新江川候 阿致堂

右之新江川候 阿致堂 信宗米倉

同國多摩殿

一 上徳方村 信宗米倉

右之新江川候 阿致堂 信宗米倉

同國同族

一 上村田村 右 同 人

右之新江川候 阿致堂 信宗米倉

同國同族

一 枡原村 右 同 人

右之新江川候 阿致堂 信宗米倉

同國多摩殿

一 中川 後枝常力

堀田式部

右之新江川候 阿致堂 信宗米倉

堀田式部 堀田式部

堀田式部 堀田式部

朱書

同國同歌

二大卷

同國同姓

二
猿ヶ原

同國群馬於

二
座之椅

同國歌

二八料

衣同人

二
確氷

校倉依瀨子

衣之所に女を収めて置きて母を
哀れ通ふ

上野國耳樂歌

二南枝

阪垣伊三

同德同和

△西校

右同人

同德同和

△
一
白
井

右同人

在三所、他所、女点即女座、
他所、女点即女座、

同國書畫歌

一 符 岩

卷八

高、以復所

石堂先生集卷之八

女名碓氷清園而之名又之就教之

漢文志

同國群臣

二 大渡

柳子文所

同國同歌

△一真正

右
同
人

同德社

二 續

東山先生

古三藩之他國之東之寶女
一切抄寫不令以他國中往弄

朱書

一 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中
一 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中

同國利根村

△ 戸 倉

野田 山外 記

右 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中
注 文 又 亦 結 中

住波國統子歌

一 福 修

山 村 基 子 傳
右 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中

同國江東歌

一 清 月 清 村

堀 大 和 吉

同國同歌

一 小 野 川

加 久 主 度

同國同歌

一 波 合

右 同 人

同國同歌

一 心 川

右 同 人

同國同歌

一 市 川

右 同 人

右 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中
注 文 又 亦 結 中

同國統子歌

一 勢 川

山 村 基 子 傳

右 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中
注 文 又 亦 結 中

越後國頸城郡

一 市 振

山 村 基 子 傳

右 女 子 所 在 之 地 又 亦 結 中
注 文 又 亦 結 中

同國同歌

一 関 川

右 同 人

朱書

有る女、依て山國より来たりて、女に
しん

同國同族

○一 新崎

右同人

有る男、別所より来りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

△一 山

松平月白

同國同族

△一 雲川

右同人

有る男、別所より来りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

○一 今

松平月白

有る女、依りて、女に依りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

○一 氣賀

近江海蔵助

有る男、別所より来りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

○一 金持

右同人

有る男、別所より来りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

○一 山

松平月白

同國同族

○一 山中

打本桂依

有る男、別所より来りて、女に依りて、
女に依りて、女に依りて、女に依りて、

同國同族

○一 柳ヶ瀬

升任掃部

朱書

石上小園の上方の廊下を了て以て女園也と
紀帳に記す中より上方小園外に
如く云々所記因て大橋南橋外に
大橋町を以て示す所は名を以て示
す所は所記に從ふと云ふ事なり

甲斐國山梨郡

△一 落瀬

貞明寺

同國巨野郡

△一 石反

久保寺

同國八代郡

△一 本栖

徳村寺

右三本栖一寺は、後代に長安寺
勤王の死後所記の如く此寺に
中より或る神佛の如く入る所
所々々々々々々々々々々々々々々々

右通記に云々

十二月

箱根沖國所記大名通記の節

武家改方一書

文化四年

箱根

右沖國所記大名通記の如く列
内長柄小長柄具足持等類
又その列と雖も、此等
改方所記も有る、而して
右等々々々々々々々々々々々々々々々

以上

仙石次子

四月

日書名に記す所は、此列と雖も

以て通記

四月

大久保安藤

諸君之命、以爲現下
之海、係中、所入、自、西、紀、實、目、之
引、外、至、改、之、多、爲、多、之、以、定、法、
以、定、以、列、候、之、形、亦、爲、公、之、以、
以、定、之、以、定、之、以、定、之、以、

百姓町人進教一役

一、中、定、書、一、肉

町人百姓

中、重

進教

重、進教

中、

田畑家、進教

取上、

中、

田畑家、進教

中、

田畑取上

田畑家、進教

田畑家、進教

田畑家、進教

一家八人看病者休日と日数
享保十三未年三月

一 普濟所

三十日

一 家藏所

廿日

一 破損所

十二日

一 類焼所

二十日

一 看病所

十日

右ふふふと指ひ父母共妻と難已敷
病氣は急斗其外親類病室
に之れを自に不吉其他外に看病
いふに之れを内におぼし
ておぼし奉

未

三月

右書付 中蔵公方御食料石録

由内并
冲雲卷法が供連被定一末

文化元年

寺社奉行元

上野詣上寺

冲雲卷并山内伝家供連方
列紙一通所定書有以中
秋方書留所終通付中
右一通所定書有以山内
年終所定書有以山内
山内伝家供連方
供以上

六月

云尼常乃

四書面上野詣上寺

冲雲卷并山内伝家供連方
山内伝家供連方

僧正光惠の御書

一 中將少将侍従等外官位階等
一 山内南 後等
一 山内南 後等
一 山内南 後等

但防安公会別年久
正月廿四日

常憲院御書書後

足

一 中將少将侍従等外官位階等
一 山内南 後等
一 山内南 後等

加賀守同族被官の御書
一切伏し奉る
宝永二年十二月十日

歳有流御書書後

足

一 中將少将侍従等外官位階等
一 山内南 後等
一 山内南 後等

上野増上寺年中
冲霊花開閏三月

安永七年

上野

冲霊花開閏三月
十三日 至八時 着六時迄
十四日 明六時 着六時迄
十五日 明六時 着六時迄

増上寺

冲霊花開閏三月

十三日 至八時 着六時迄
十四日 明六時 着六時迄
十五日 明六時 着六時迄
但前二日は着六時迄開花後
着六時迄有三月申年中
開花後有三月

正月朔日、市川門外、日暮、美園関
次、才上野

市川屋、市川三箇、日圓、市川、
同、夕、七、市川、市川

市川、市川

市川屋、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

市川、市川、市川、市川、市川、
市川、市川

長柄傘糸肉傘

一 宝曆十二年十月十日
長柄傘糸肉傘
此大佛堂門主乃佛使也
城々名佛堂入長柄傘下示之
王々々々々々々々々々々々々々々
王々々々々々々々々々々々々々々
則渡堂院渡佛堂出於佛堂外
收情々々々々々々々々々々々々
来々々々々々々々々々々々々々々
以如渡堂院渡佛堂下示之
傘乃持中乃渡堂院下渡堂
口乃渡堂院下渡堂院下渡堂
了々々々々々々々々々々々々々々
渡堂院下渡堂院下渡堂院
中渡堂院下渡堂院下渡堂院

朱書

九月番毛利銀

淨戒と云は、
下、示、近、持、傘
相持、未、以、寺、院、
と云ふ、句、後、
天氣、能、常、
と云ふ、示、
長、雨、傘、
相持、中、
男、女、共、事、

十月

一明和六、七年三月、各々夜、奥徳寺
宅より、東海寺、叡徳師、聖徳院、法教
如來寺、長壽寺、方々通書あり。

出川東海寺也 城之爲其氣也

系因拿卜系述乃持以爲定之書

長柄拿必觸有子以爲

此誠或云云之語

西天何水名漢玄闕述天氣類

下京連乃村來以三山周備

任職多年周旋勤必中必

年

白後教習部之相國寺

歸於人衆者

以牙金地院價持院上野執通

諸上寺以志示教於天下

中江氏

限下系述為持為什集述

致意禮以治定之

今下馬に殘並下馬せられ

中乃要る中流に

他面天と角と水仁と定意

以爲是述之也

1

山崎定恒以下長柄傘一幸
文化丑辰八月廿日

井上多浪以下中津浦如所及
取調下ヶ礼一幸一幸一幸一幸
同十八日下ヶ礼清取

八日

梅一幸一幸一幸一幸一幸一幸
格調級一幸一幸一幸一幸一幸
年一幸一幸一幸一幸一幸一幸
節一幸一幸一幸一幸一幸一幸
不若一幸一幸一幸一幸一幸一幸
承合一幸一幸一幸一幸一幸一幸

下ヶ礼

四書田一幸一幸一幸一幸一幸一幸
個級四書田一幸一幸一幸一幸一幸
一幸一幸一幸一幸一幸一幸一幸

病癒………源教殿母儀
 桐慈院及心下………
 父國授加賀女………申借も
 ……尾張殿代、台創勸業
 万石、後………
 小常男………海菱次郎
 子依………成長いふ
 在勤以依………小常也主
 家督………
 同今未………
 陸兵………
 越々………肝………也驚
 出来………
 ……
 ……
 公急動………
 預入………

六月

成源自殿

書板

志水君が命を取獲て依預
せし付に、勅令ありて、
近衛木格列、伏見令
居、修政せしむ。又、田子と
し、内戚長いなり、以て、
小公卿に再勤せしむ。り
石井の筆

石封一以名山明於後
中誠府上渡

七月七日 序

實政三度八月十一日蒙東傳務書
柳生之脈心清取個書面之内別紙
一通中有以紙分別紙不系以
尤急於速達以之云々云々

遠方、神社寺院、小倉宿、並下
 屋敷、養生所二類、地方に、我々、
 負、運、こ、運、り、方、他、役、事、負、
 こ、もの、少、数、の、常、模、様、一、回、
 不、仕、候、も、て、こ、以、致、を、終、り、有、以、来、
 一、度、因、事、の、依、は、能、た、り、と、云、
 一、
 明、和、二、箇、年、別、紙、に、多、少、書、有、り、
 其、所、渡、り、知、江、名、角、介、に、知、是、事、

長安之水速於下而終於病氣
張氏有言乎此以之

文化天子年正月廿日
細川越中守

四、連名換

長星之印先復代
身之乃美無所賊中
子乃婦子之其不
作此匪後國八付
以好為勝女沈有
若其原流以生倒

又月六日

沈氏在焉

是を以て一なるに非ざるを以て

望

山藏園相樂款
款合百七拾三石武斗
九升
一
千一方家來長星來伐
休如病重付此充
帶刀下以爲下收納
中渡以也

文化天子

六月四日

青宋野書

玄升大蛇

三田采女正

細川越中書院

昨後國社減代松井常石上常分
發中改令為勝分奉

字 和泉吉

太刀他

米分他

不平目

殿中_に相用_ひけりも不若_し筋_のより

一書

但_し用_ひけり又_も看_み版_の板_の以_て名_を得_し

丁_の改_め遠_く急_に

以_て月_の淨_け依_る

書_の中_に上_の色_をお_もひ_し書_を名_を
以_て依_る書_を知_る
丁_の月_の改_め日_に三_つ年_の書_を

以_て書_を取_り紙_の一_つ取_り調_へ紙_を速_に

法_の向_ひふ_を力_を作_る力_を等_し

殿_中有_る不_若筋_の同_じ合_ふ書_を

以_て定_める_を書_を以_て以_て書_を

三月

池田龍溪
松本武敏

文化三年松平出羽守徳元四月廿七日
同會後投



叶松平龍溪



有松平龍溪



有松平龍溪



惣髪と帽の中

右に魚下し札紋接ぎ

天保十三寅年八月十九日卯小月廿日
乃通回合日外下札と云接ぎ

絹服綿服とのお違ひを云々
織物より分絹とお記し綿服と
織物より分絹とお記し綿服と
絹服より分絹とお記し綿服と
絹服より分絹とお記し綿服と

黒田勘十郎

八月十九日

黒田勘十郎

下札

綿服より分絹とお記し綿服と
綿服より分絹とお記し綿服と
綿服より分絹とお記し綿服と
綿服より分絹とお記し綿服と

天保十三閏三月三日

一町家仍吐味方其力稍減味上諸方
同会願書目下札を以て投書す

町人他藩より今に至る迄信用
其希薄中より者に於て頗る多
く其を以て加中より他藩
より者及び別他藩より者
病状いふ事、當時諸子一代
お成存中より計前出書に於て
世傳及び中より加中一代印
中より後所より長久保より
以後所より山根板口親重より
以後所より山根板口親重より
以後所より山根板口親重より

平家平家平家

二月

下札

本天保十三閏三月三日

はげま向ひ上

松平様へ敬呈

ふたつを左へ

六月
廿九

書面致送三日様へ御礼を

候へ

市田様へ方々様へ申す

甲乙よりく勝角未へ候へ

方々へ御礼を

西尾様へ同

方々へ御礼を

今依依忠告致送三日様へ

不審畏之南信士同様に先年

若妻依之細八中山年々運

加勝へ致す也

方々へ御礼を

御礼を

文禄二年六月七日



東京大学経済学部図書館



5505452515